



藤工業株式会社

DX戦略2026

2026年5月1日 更新

目次

01 代表メッセージ

02 DXビジョン

03 DX戦略

04 DX推進体制

05 人材・IT環境整備

06 指標

01 代表メッセージ

近年、少子高齢化の進展による次世代の担い手確保に加え、自然災害の激甚化・頻発化、インフラの老朽化など、建設業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。

一方で、デジタル技術はAI、IoT、ICT施工、3次元データ活用などの分野で大きく進展し、建設現場においても実装段階へと移っています。これらの技術は、単なる効率化や省人化にとどまらず、施工の見える化、技能やノウハウの共有、安全性の向上、品質の安定化を実現し、現場力そのものを高めるものとして重要性を増しています。

いま求められているDXは、現場運営のあり方そのものを見直し、データを活かして判断と行動の質を高めていく取組です。人材不足が進む中でも施工品質を維持し、災害対応や地域インフラの維持に着実に応えていくためには、デジタル技術の活用は避けて通れないものと認識しています。

このような環境変化を踏まえ、当社はデジタル技術とデータの積極的な活用によりSDGsを推進し、地域の持続可能性を追求するとともに、従来の業務を変革し、社員一人ひとりがより安全に、より働きやすく、より力を発揮できる環境づくりに向けた「藤工業DX戦略」を推進してまいります。

社員一丸となって戦略を着実に進めるとともに、その進捗状況や取組内容についても、ホームページ等を通じて随時発信してまいります。

2026年5月1日
藤工業 株式会社
代表取締役 江藤康臣



デジタル技術とデータの積極的な活用でSDGsを推進し、地域の持続可能性を追求するとともに、従来の業務を変革し、社員の働き方改革を実現します。

V I S I O N

戦略① 建設現場のDX

- デジタル化を推進し、ICT建機と3次元データの効果的な活用を通じて、建設現場の品質と効率性の革新を目指します。

戦略② 働き方のDX

- デジタル化の取り組みを通じて、企業の運営効率と経済性を向上させ、持続可能なビジネスモデルの実現を目指します。

建設現場のDX

- ・ICT建機の充実
- ・3次元データの活用
- ・ICT施工による品質の安定/高度化
- ・事業継続性の強化



働き方のDX

- ・情報共有
- ・生産性の向上
- ・ペーパーレスの取り組み
- ・安全管理



建設現場のDX

1. ICT建機の充実

建設機械にICTを導入し、測量・施工精度の向上を図り、技術的な優位性を高めます。

当社ではこれまで杭ナビショベルなどのICT建機やUAV（ドローン）を積極的に導入し、複数台を所有することで複数の現場に対応できる体制を構築してきました。これにより、効率的かつ高品質な施工を実現しています。

今後も、タブレットを活用した3次元測量やUAVの内製化など、ICT建機の種類・数を増やし、現場毎に配置することで、**より作業の効率化や安全性の向上を図り、技術承継を実現**します。

2. 3次元データの活用

3次元データの活用により、測量から施工までデジタル技術を駆使し、測量工程の作業時間・人員の削減、施工工程の効率化を実現します。さらに、今後は3次元データの作成技術を内製化を目指し、知識や技術を身に付けた若手技術者の育成にも注力します。これにより、**データを共有・活用した一連のプロセスの効率化や、各段階での問題発見、改善が可能となり、より良い品質の施工を実現**します。

建設現場のDX

3. ICT施工による品質の安定/高度化

ICT施工により、**作業の正確性と効率を向上**させます。具体的には、3次元データを活用して、正確な位置や深さ、角度などを自動的に計測・制御することで、人為的なミスを減らし、作業の精度を向上させます。また、作業データを共有することで、現場と事務所の連携を深め、全体の作業効率を高めます。現在は、コミュニケーションツールを導入し、現場ごとの進捗管理を行うことで、情報共有の迅速化と効率化を図っています。

さらに、ICT施工は品質管理にも寄与します。**施工データを記録・蓄積することで、後から詳細な検証や分析が可能となり、品質の一貫性と改善**に取組みます。

4. 事業継続性の強化

クラウド技術を活用してデータやシステムを保存・管理することで、**災害やシステム障害が発生した場合でも事業を継続できる体制を構築**します。クラウド上にデータを保存することで、地域的な災害や事務所の設備トラブルなどからデータを保護します。

これにより、いつでもどこからでも必要な情報にアクセスでき、業務継続に必要な最低限の機能を保つことが可能となり、できるだけ早く業務を再開することができ、発注様への影響を極小化し、業務の効率化とコスト削減にも寄与し、事業の持続性と安定性を高めるための重要な取り組みとなります。

働き方のDX

1. 情報共有

業務に関する知識や情報を全員で共有し、それを活用して効率的に仕事を進めていきます。コミュニケーションツールを導入することで、現場からの情報共有や報告がスムーズに行い、移動時間の削減にも繋がります。また、アルコールチェック機能を備えた勤怠システムを導入することで、直行直帰の働き方に対して勤怠報告にかかる時間を削減し、業務効率化を実現します。これらの取り組みにより、**柔軟な働き方の推進や、迅速な意思決定を支える環境を整備**していきます。

また、クラウドストレージなどのITツールを活用することで、リアルタイムでの情報共有や、場所を問わずにアクセス可能な環境を作り出すことで、作業の効率化や業務のスムーズな進行を実施します。

2. 生産性の向上

案件の予算や進行状況をデジタルツールで一元的に管理し、情報をリアルタイムで共有することで、より効率的な業務遂行を目指します。具体的には、**予算進捗や工期管理、材料の発注状況などを一覧化し、必要な情報を即座に把握**できるようにします。これにより、予算超過や工期遅延などのリスクを早期に察知し、適切な対策を講じることが可能となります。また、各部署や現場間での情報共有もスムーズになり、**全体の作業効率と生産性向上が期待でき週休2日制を実現**します。

働き方のDX

3. ペーパーレス

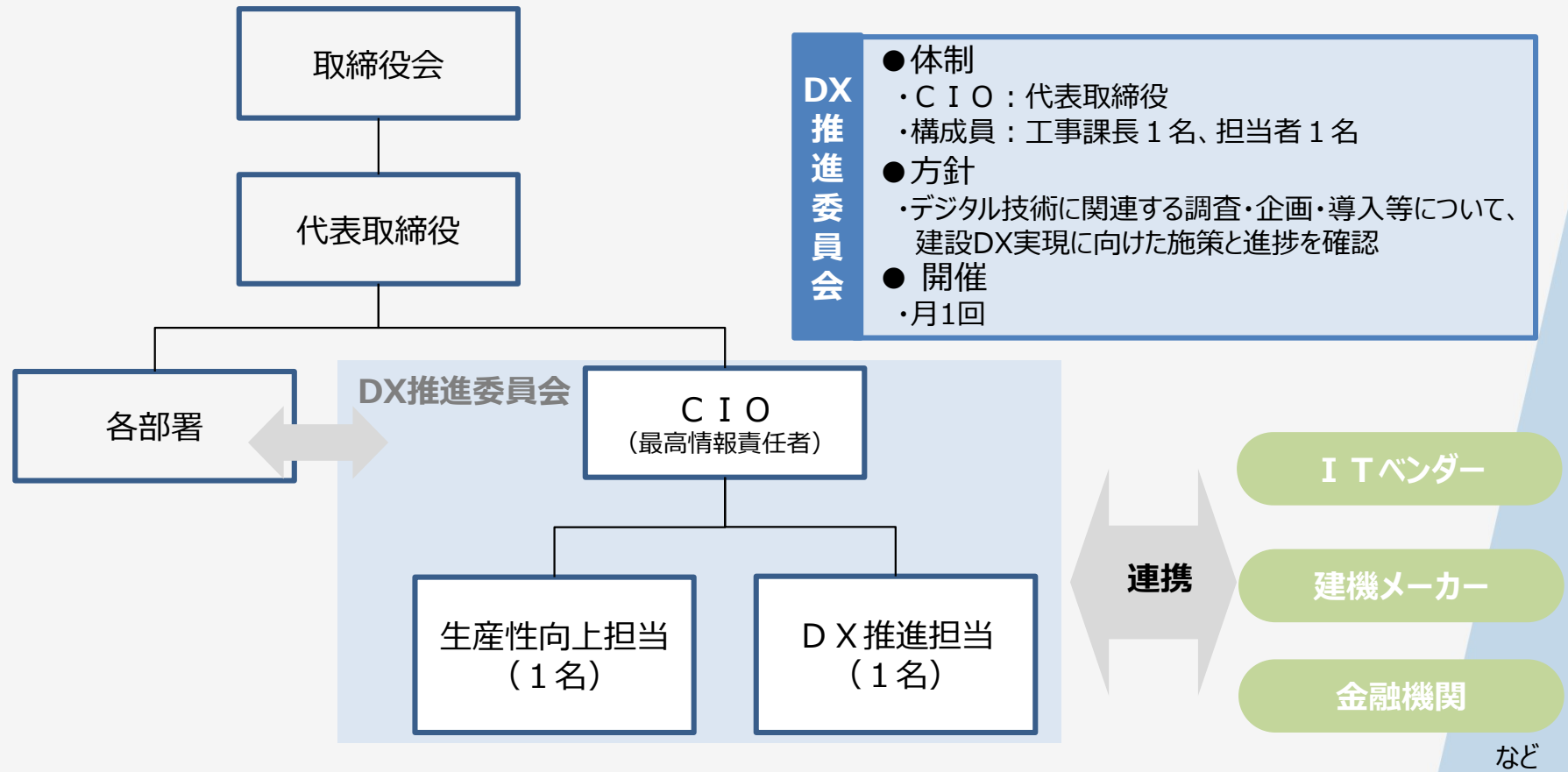
紙による情報共有や作業記録から、デジタルデータによるものへと移行し、**情報の検索性や共有性を向上**させます。また、データの保存や管理も一元化し、効率的な業務遂行を可能にします。さらに、ペーパーレス化は環境負荷の軽減にもつながります。**紙の消費を減らすことで、森林資源の保護やCO2排出量の削減に貢献**し、業務効率化と環境保護への貢献し、コスト削減や納期短縮、標準化に繋がります。

4. 安全管理

建設現場での熱中症対策として、スマートウォッチを活用したバイタルチェックを導入します。作業員の心拍数や体温、活動量などをリアルタイムでモニタリングし、熱中症リスクを低減します。また、データの蓄積と分析を通じて、作業環境やスケジュールの最適化にも活用していきます。**作業員の健康を守り、安全な作業環境を維持**していきます。

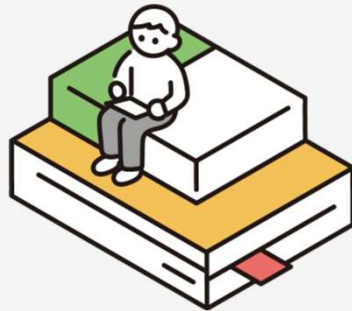
DXビジョンを実現する体制・運営

代表取締役がC I O（最高情報責任者）を兼務し、「生産性向上」「DX推進」の各担当を指名し、各部署の関係者が協力してDX推進に取り組みます。



下記の人材・IT環境整備によりDX戦略を推進します。

人材育成、確保の施策



IT人材の育成

- IT関連資格の取得
- ICT施工関連技術の習得
- 社内人材のリスキリング

IT人材の採用

- IT人材の採用
- 中途採用の実施

外部企業との連携

- 外部企業との連携・協働によるノウハウの獲得
- 外部企業との定期的な情報交換の実施

IT環境整備の施策



クラウド活用

- 社内システムのクラウド移行に向けた環境整備
- データ保管サーバのクラウド移行
- 紙帳票の更なるデジタル化

モバイル活用

- 各現場へのタブレット端末導入

セキュリティ対策

- 端末のセキュリティ強化
- ネットワーク監視の強化
- 顧客データのプライバシー保護とセキュリティ確保

次の指標によりDX計画の推進状況を管理

建設現場のDX



- ICT施工対象工事実施率
100% (2028年度)
- 3次元データ活用対象工事実施率
100% (2028年度)

働き方のDX



- リモート打合せ件数
2件以上/月
- 週休2日制の継続実施

人材育成



- ICT施工関連技術者 5名
- IT関連資格取得 3名
- デジタル活用勉強会 12回/年